

関わりを生きる ゆとりと間

校長 Sr.大山 江理子

コロナ禍4年目の学校生活では、これまでできなかった様々な活動に取り組めるようになっていきました。今年は運動会も3学年ずつの2部制で行いました。それぞれの部で、上の学年が役割を果たす姿を下の学年が見ながら活動し、豊かな学びの機会となりました。第一部では4年生の頑張る姿も見られました。

学校行事を通して子どもたちは、最後まで取り組むことや協力することを学びます。運動会の当日のように、最後には達成感と満足感を得られることでも、そこに至るまでには思うようにいかなかったり、子どもたちの間で意見の違いがあったり色々な経験をするものです。しかし、それが実はとても貴重なことです。そのような思いがけない事柄の中から子ども達は人との関わり方や言葉のかけ方を体得していきます。

これまでの3年間の生活を振り返ってみると、感染防止に留意して、とにかく危険を避けて安全最短距離で行き来してきたと言っても良いかもしれません。寄り道やゆとり、余計なことは省いて、目的達成に集中してきたのかもしれない。それはそれで重要なことでした。しかし、今、新たな段階に入って、これまで控えていたことに取り組むチャンスを得ています。

水曜日の朝礼には2学年ずつ初等科講堂に集まっています。子どもたちを目の前にして話ができることは私には大きな喜びです。一方、子どもたちはクラスの友だちと列になって並び、2学年が集まる場できちんと立って話を聞きます。これはこの3年間あまりなかった経験です。集団の中で適切な間をとって立ち、ゆとりをもって身をおきます。自分のことだけ考えていてはできません。「人と共に」の行動です。他の場では気づかなかったことに、この新たな経験を通して直面することもあるかもしれません。人と関わることで、自分の姿も見えてきます。

グループでの活動や異学年交流が再開していくと、思いがけないできごとによって遭遇するものです。その中で、適切な間をとって人と関わる。待ったり、譲ったり、分ちあったり、一歩前に出たり、思い切って引き受けたり、思う通りにならない様々な場面からどのように人と関わったら良いかを学びます。ゆとりがないとできない経験です。これまでしばらく訓練不足だったところもあるかもしれません。少し不器用にぶつかってしまうことがあるかもしれません。見守る大人の方も間とゆとりの感覚が求められそうです。子どもたちが関わりを学び、育つかに信頼して、少々の寄り道も認めながら見守っていききたいものです。



6月の行事予定		～みこころの月～	
2日(金)	家庭学習日(私学一日研修)	16日(金)	5年美術館見学 (2-4限きく・ふじ / 4-6限ばら・ゆり)
3日(土)	保護者後援会幹事会		カトリック教会イエスのみ心の祝日
5日(月)	1年・転入・編入生保護者会	23日(金)	みこころの祝日行事 (SBH)
7日(水)～8日(木)	5ゆり・5きく校外学習(清里)	24日(土)	保護者講演会(AM)
8日(木)～9日(金)	5ばら・5ふじ校外学習(清里)		第1回転入・編入学校説明会(PM)
10日(土)	第1回初等科学校説明会	26日(月)～7月11日(火)	2～6年水泳期間
11日(日)	カトリック教会キリストの聖体の祝日	28日(水)	6年まとめのテスト①(1-4限)
14日(水)	一日学校参観日	30日(金)	6年美術館見学
15日(木)	6年英単語検定(4限)		

自分の力を尽くすこと

教頭 吉岡 真左美

聖マグダレナ・ソフィア・バラの祝日を記念して、5月27日に運動会が行われました。運動会日和の晴天に恵まれ、子どもたちは元気に競技や演技に力を発揮していました。運動会に向けて積み重ねてきた練習の成果を、ご覧くださる保護者の方々に見ていただけるよう、力を尽くして頑張っていました。保護者の皆様に応援していただくことは、子どもたちにとって喜びや達成感につながる大きな力となります。ご観覧いただき、有り難うございました。



また、泉の会幹事の皆様が朝早くから集まってIDカードの確認や入場整理をしてくださったり、終了後には椅子の脚拭きなどのお仕事をしてくださりました。そして、多くの保護者の皆様に椅子片付けのご協力をいただきました。多くの方々に支えていただき運動会を行うことができましたことを、心より感謝申し上げます。

4年生以上の児童は、係活動においても力を尽くして取り組んでいました。大きな声で呼びかけたり、低学年のお手伝いをしたり、自分の仕事に責任を持って取り組む姿が多く見られました。誰かのために、みんなのために、自分の力を惜しみなく使うことは、マザー・バラが大切に考え、子どもたちに望んでいらした姿です。運動会での学びや経験が子どもたちの力を培っていくものとなるよう、これからも励ましていきたいと思ひます。



5月中旬に、オーストラリアのFCJ Collegeの生徒が来校しました。高等科生が英語研修で訪れ、交流を続けている学校です。今回は6年生とも交流する時間を持ち、FCJの生徒が学校紹介のプレゼンテーションをしたり、グループに分かれてお互いに自己紹介をしたりして交流をしました。初めは緊張した面持ちでしたが、コミュニケーションが取れるようになってくると笑顔が増え、会話も進み、最後は別れ難い様子でした。自分の力を尽くして相手と理解し合おうとする有意義な時間となりました。



みこころの月のプラクティス

あたたかい言葉でつながろう、広げよう
イエス様とともに